



S_{unday} S_{chool} クラスルーム

日本キリスト教団 荻窪清水教会 日曜学校だより No.28 2022. 10. 30 発行

正しい指導者

列王記下23章1-3節

ごきげんよう!

牧師 梅津 裕美

ウクライナとロシアの戦争が終わらずに、悲しむ人々は増えて行くばかりです。平和を願うわたしたちの祈りは尽きません。この二つの国だけでなく、今世界中で、自分の思い通りを成そうとする指導者の独裁が嘆かれています。良い指導者が立てられると民が幸せを実感して暮らすことができるのに、自己中心な指導者は、民のことよりも、自分の立場優先という過ちを犯してしまいます。

旧約聖書の列王記は、神さまが導いてくださった約束の地カナンで神の王国（北王国・南王国）を導いた王さまたちのことを伝えています。北王国イスラエルにも南王国ユダにも代々の王さまが立てられて、歴史が進みます。ところが、ほとんどの王さまが神さまのお言葉に従うことができずに、神さまの祝福が受けられませんでした。特に北王国は内紛が絶えず王さまが短期間で次々と交代して、とうとう国が滅んでしまいました。南王国ユダにも神さまのお言葉を軽んじる王さまたちがいましたが、一方で神さまのお言葉に忠実な王さまもいました。この御言葉に登場するヨシヤ王は、神さまのお言葉を第一にする王さまでした。

ある時、神殿の修復をしていたら、神さまの言葉を記した巻物が見つかりました。おそらくモーセが語った申命記の言葉ではないかと言われています。ヨシヤ王は、見つかった巻物に書かれていた「唯一の神さまを愛する」基本に立ち帰って、神さまを崇めることを民に勧めました。なぜなら、人々がカナン地方の異教の神バアルやアシェラなど、お金持ち願望を満たしてくれる神々に心を動かされて、真の神さまから離れてしまったからです。私たちもつい、目に見えるものに寄り頼みたくなります。でも、本当に私たちを守り抜いてくださるお方は、唯一の真の神さまだけなのです。ヨシヤ王は民を神さま中心の生活に立ち帰らせた正しい指導者でした。

堀内長老からのメッセージ



10月31日は「宗教改革記念日」です。宗教改革は、マルティン・ルターが声を上げ、多くの改革者が続いた聖書に立ち返る運動であり、神さまの恵みによって、キリストの十字架によって人は救われ、神さまへの信仰によってのみ人は義とされる改革運動でした（聖書のみ、恵みのみ、キリストのみ、信仰のみ、神の栄光のみ）。私たちも10月30日の礼拝では、ルターが作詞作曲した讃美歌377番「神はわが砦（とりで）」を歌いました。曲の一節には「主キリスト、万軍の君」「主の言葉は悪に打ち勝つ」「神の国はなおわれにあり」とあります。かつては宗教改革運動の行進曲と言われ、勝利の歌のように思われていました。しかし、この曲の本当の意義は「勝利の歌」ではなく「慰めの歌」です。人が勝利し、人の国が栄えるものではありません。そうではなく、悪に苦しむ教会と信仰者に対して、ただ神さまの恵みとキリストの十字架にのみ勝利があることを歌っています。ドイツの教会では、受難節の讃美歌としています。まさに「聖書のみ、恵みのみ、キリストのみ、信仰のみ、神の栄光のみ」の歌です。